

研究授業「保育実習指導 I - I」の実施報告

山本 幾代*

Report of an open demonstration class for *Childcare Laboratory I-I*

Ikuyo Yamamoto

要約

本稿は、平成24年（2012年）度第1回保育学科研究授業の実施報告である。当該授業科目（保育実習指導 I - I）における本時のテーマを「保育者としての資質能力の育成」とし、副テーマを「子どもの世界をみてみよう」とした。

当該授業のスタイルは「学生の手あそびの実践」を通して指導上のポイントを示す。また、保育者の資質能力の一つとして絵本への関心を深め、保育現場で実践力を習得することを毎授業で実施している。

本授業では、保育職を選んだ学生の成長の秘訣を学び、保育日誌等を記録するポイントを学習シートに記入しながら授業者は講義を進めた。最後にVTRを見ながら保育者の援助、子どもの姿を通して学生の気づきを記入し保育者の資質能力の育成を行った。

キーワード：授業公開、研究授業、保育実習指導 I - I

(Abstract)

This paper reports on the results of the first open demonstration class in 2012 in the Early Childhood Development Department at Takamatsu Junior College. The class that was open was, *Childcare Laboratory I-I*. The theme of the class was *How to build the characteristics of a strong childcare professional*. The sub-theme was, *Taking a look at the world of children*.

The class focused on using children's games as a point of instruction, moreover how to develop yourself as a strong childcare professional by deepening your interest in the use of picture books in every class.

Students learned the secrets of becoming childcare professionals, and progressed by learning how to keep records on children's daily progress. Finally, students realized

* 提出年月日2012年11月30日、高松短期大学保育学科講師

how they can become better childcare professionals by watching videos and realizing how children develop with the assistance of the childcare professional.

Key words: open classes, demonstration classes, childcare laboratory I-I, teacher training

はじめに

本稿は平成24年度第1回保育学科研究授業「保育実習指導I-I」の第7講実施報告である。

第6講では「実習・就職理解をもとに園理解へ」のテーマのもと、保育実習や就職の流れを学び、園理解に努める意欲を高めた。本稿では、「保育者としての資質能力の育成」とし、保育職を選択し全科目の集大成として保育実習を理解するための授業である。

以下は、その研究授業の実施記録と授業観察との検討会やコメントをまとめたものである。

1. 研究授業実施の日程

研究授業及び検討会は次の日程で行われた。

(1) <研究授業> 日時：2012年5月22日（火）2校時

場所：本学2号館 2101講義室

授業科目：保育実習指導I-I

対象：保育学科 1年生（66名）

授業者：山本幾代

参観者：保育学科教員 8名

(2) <授業検討会> 日時：2012年5月22日（火）5校時

場所：本学2号館

参加者：保育学科教員 9名

2. 「保育実習指導Ⅰ－Ⅰ」の授業計画（本学シラバスより）

（1）[授業の紹介]

この授業は、「保育実習Ⅰ」「保育実習Ⅱ／Ⅲ」を受講する前に、保育実習にあたっての知識・技能・態度を学ぶファースト・ステップであり、保育士資格を取得するための必須科目である。この授業では、保育実習の意義や目的を理解し、実習に向けた目的意識を高め、課題をもって実習に取り組めるように学んでいく。観察や記録に関する指導、指導案や考え方や教材準備、保育実技など、実習を円滑に進めるための知識や技術を習得する。また、事前、事後の学習や実習体験を振り返り、保育所や施設の機能、保育者の役割や職務内容など具体的・総合的に学んでいく。

（2）[教育目標]

保育実習の目的、内容、意義を理解し、目的意識をもって実習現場へ臨むことができるように、基本的な知識・技能・態度・職業人としての振る舞いやマナーを学び身に付ける。

（3）[成績の評価]

出席状況、授業中の態度、提出物、期末試験

ただし、欠席・遅刻が多い者、また実習意欲が感じられないと判断された者は、実習先との交渉上、実習を取りやめることがあるので、授業には緊張感をもって臨むこと。

また、この科目はカリキュラム 編成上、「保育実習Ⅰ」と同時期に単位認定をする。

（4）[授業計画]

第1講（4月10日）オリエンテーション 保育実習の目的・内容・意義

第2講（4月19日）保育実習の進め方 保育実習の位置づけ

第3講（4月24日）保育所の理解・保育所実習の一日

第4講（5月1日）施設の理解・施設実習の一日

第5講（5月8日）実習園における実習生の立ち位置

第6講（5月18日）実習生の心構え・実習の方法 実習園の理解

第7講（5月22日）実習生のマナー指導・子どもの世界をどう見るか

第8講（5月29日）保育実習 保育技術に関する基本的な考え方（1）

- 第9講（6月5日）保育実習 保育技術に関する基本的な考え方（乳児保育）（2）
- 第10講（6月12日）保育実習 保育技術に関する基本的な考え方（保育所施設）（3）
- 第11講（6月19日）施設実習を理解する 実習園の紹介
- 第12講（6月26日）実習記録の日誌・指導案の書き方
- 第13講（7月3日）実習にあたっての心構え 守秘義務・人権意識などの職業倫理
- 第14講（7月10日）実習に向けての準備・諸注意 保育技術の手遊び
- 第15講（7月24日）まとめ

(5) [授業時間外の学習]

関連するトピックスについて教科書を予めよく読んでおくことを指導

(6) [使用テキスト]

阿部和子・増田まゆみ・小櫃知子編 最新保育講座『保育実習』ミネルヴァ書房

(7) [参考文献]

適宜紹介

(8) [その他]

3. 本時の概要

(1) 授業科目「保育者としての資質能力の育成」（子どもの世界をみてみよう）

学生による「手遊び」の実践発表は、保育の現場ですぐに生かすことができ子どもとの距離が一気に縮まり関係を取りやすくなる技術を毎回の授業で習得する。

絵本の読み聞かせ「ねえ、どれがいい」ジョン・バーニンガムさく、まつかわまゆみ訳 評論社出版をし、本時の授業の展開とする。『選ぶ』ということは人生にはついて回るものである。すでに保育職を選んで入学し学ぶ学生にとって「保育者としての資質能力」を本授業で理解できるよう指導する。保育職を選んだ学生の成長の秘訣はハードスキルとソフトスキルの両方を学ぶ必要があり、その秘訣は「読む力」「聞く力」「話す力」「書く力」「みる力」を身につける。それが「生きる力」であることを理解する。さらには、実際の保育

の様子をVTRを通して見て、子どもの姿と保育者のかかわりや言葉かけから実習生としての気づきを養いたい。

(2) 本時の授業目標

入学して2か月足らずの時期に「保育の世界を見る」－「保育者の資質能力の育成」とした。保育職を目指す今だから、子どもの成長に関与する責任と保育記録や自分に向き合う覚悟をすることを願って設定した。また8か月後には、保育実習生として保育現場を経験するときに必要な「手遊び・わらべうた」「絵本に親しむ（毎回季節に合ったもの、授業内容に関連した絵本を選択している）」ことは毎授業で習得している。本時もいつものようなねらいである。本時の目標としては、

- ・ 保育の現場に生かせる保育技術（手遊びなど）を実践し、わらべうたなどを理解し、技術を身に付ける。
- ・ 子どもの世界の見方を通して子どもの（保育）遊びのおもしろさを知り、保育職を目指す意識を確かなものとする。
- ・ 保育者としての資質を養うために、子どもの世界の「起こった出来事⇒保育者のかかわり⇒出来事に対して考えたこと、感じたこと」を順位整理し考える。

(3) 授業内容等

授業の展開（本時の指導案、6講の指導案等は後掲）

6講では実習・就職理解をもとに園を理解することをねらいとして授業を（保育士資格・幼稚園教諭二種免許状を取得するために必要な実習・1年次の取り組み、2年次の取り組み）を終えている。

また、パワーポイントでマナー指導、実習条件の遵守についても学習している（後掲）。

①導入

授業の最初に、いつも学生による「手遊び（わらべうた）」の実践をしている。学生の実践から「手遊び」のポイントを指導する。

また、保育者として知識を広めるために、季節に合った絵本や本授業に関連した絵本を選び、授業者が読み聞かせをする。絵本題名、作者、出版社を示し、絵本の感想を学習シートに書くよう指示する。

本時は『ねえ、どれがいい』ジョン・バーニンガムさく・まつむらまゆみやく・評

論社出版の物を使用した。毎回絵本には関心があるようで熱心に見、感想も最後の行まで記入する。絵本から「選択」するむずかしさ、すばらしさ、責任、覚悟などが読み取れることを学生に伝え、「みなさんは保育職」を選び、今資格を取得するために学んでいることを認識させ、目標を明確にさせておく。

②展開

保育職を選んだ学生の成長の秘訣として、ハードスキルとソフトスキル、両方の知識と技術とコミュニケーション能力が専門職として必要であることを理解させる。「読む力」「書く力」「話す力」「見る力」が備わって「生きる力」となることを説明した。

さらに子どもの世界をどうみるか？

保育日誌をイメージして記入の際の必須ポイント5W1Hについて、板書、指示しながら進める。学習シートや他教科で学んでいることに触れておいた。

VTR「お水が爆発だ〜」を見せ、メモを取りながら、子どもの姿、保育者のかかわり、そして考えたこと、感じたことなどを順序立てて整理することを説明した。学習シートにも穴埋め形式としている。時系列に考えることなど指導する。

集団保育の最大の長所は、自分以外の仲間の感性や創造性に触れて、その楽しさを共有できること、それを土台に一人の保育者のまなざしに気付く。見方も慣れていない学生なので2度VTRを流す。また、記録のヒントを板書する。学生の様子を巡回しながら記録を見る。

③まとめ 岩手県の子どもたち「そらよりたかく」CD

保育者の子どもに対する誇り、責任、生きる力を感じてほしいと願い、まとめとし保育者の心意気を紹介し、学生の魂を揺さぶる。最後に学習シートを記入提出し、終了とした。

(4) 指導上の留意点、工夫

- ①人として生きる力とは？と問いかけ日々の積み重ねが力になることを自覚できるよう学習シートの提示の仕方を工夫する。
- ②記入の際の必須ポイント5W1Hのイラストと学習シートには穴埋めとし、板書して正確に指導する。
- ③VTRの見方のポイントを示し、記録している学生の取り組みの状況に合わせて助言や個別指導をする。授業者自身の保育経験や保育現場の状況を伝えながら授業を進め

る。

- ④第6講義において、「実習・就職理解とともに園理解」をしているので実習という理解はしているが、保育現場を知らないののでできるだけ具体的に場面を捉えて指導する。

4. 学生の状況

授業時間は静かに聞いている様子であるが、反応の少ない学生である。熱心に学ぶ姿勢の学生と全く意欲のない学生の差が大きいと思われる。学習シート（毎回提出）には板書して「ここに記入しなさい」と指示しないと書かない状況である。保育の世界がわからない状況の学生が多いのではないかと推測している。

手遊びもしっかりできる学生とただ前にたって覚えてもいないので、真似をするだけで声もでない。授業者が毎回コメント出しているがメモも取らないのが現実である。保育者を目指すものとして専門的な技術であることに自覚を早くもってほしいと願うばかりである。保育者は「書くこと」「話すこと」「覚悟する必要性」にも気づくように、毎回の授業で指導しているがどこまで意識できているか掴めていないのも事実である。早くも保育職を断念しそうな学生も見受けられるので、保育のおもしろさや子どもの魅力も伝えたい。

授業は座席指定で実施していることと、午前中であるため居眠りの私語をする学生はほとんどいない。しかし、椅子の座り方、姿勢の悪さ、鉛筆の持ち方など基本的なことが気になる学生が多数いる。子どものモデルとなる保育職であるからきめ細やかな指導が必要である。

絵本には関心度が高く、毎回反応もよく、感想にも自分の思いを書く学生が多い。しかし、絵本を知らない、関心が薄い学生もいる。

5. 授業に対する参加者の評価

(1) 授業を積極的に評価できる点

①教育内容

- ・豊富な経験をもとに厳選された、しかも、分かりやすい内容であった。
- ・本時の授業内容は、学生に早い時期から保育現場での実習を意識させる内容（手遊

び)、豊富な児童文化財を紹介する内容(絵本の紹介・読み聞かせ)、保育記録の意義と作成する際の手立て(観察記録・日記等)に関する内容、保育者としての意識(教育的愛情、使命感)を高める内容(そらよりたかく)から構成されている。

いずれも、「保育者を目指す(=保育実習に臨む)にあたって、学生が習得すべき授業内容」としての精選が図られており、学生もポイントを絞りやすかったのではないと思われる。

- ・保育現場に必要なさまざまな技術がわかりやすく解説されていました。
- ・毎回少しずつ手遊びや絵本に目を向けさせることは、とてもいいことだと思います。「させる」「見せる」だけでなく、ポイントを説明して下さるといふ、先生の授業ならではの貴重な体験となっていたと思います。学生が「日誌を書くことが困難」という現状に対応してくださっていて感謝しています。こういう段階を経て学生が子どもを「観ること」を身に付けていくのだと思いました。
- ・学生に分かりやすい内容である。私自身の反省から、ともすると、内容を盛り込み過ぎてしまいが、今回、対象学生の状況に合わせて、授業内容を構成する大切さを再確認した。
- ・実習経験のない学生に子どもの世界を視聴覚機械にて体験させ、子どもの遊びの一場面から保育者としての資質や感じたことを引き出しておられた。また、子どもの発達段階を確認できる内容があることを学生に意識させるなど保育者を目指す意識付けを行っていた。
- ・(②授業方法含む) 厳選された授業内容で、隔々まで山本先生の保育に対する真剣さを感じる内容でした。
- ・(②授業方法含む) かつ、学生の将来に役立つようにと絵本紹介やVTR教材を用いるなど、分かりやすく、興味を持ちやすくする工夫もたくさんありました。
- ・(②授業方法含む) 聞き取りやすい口調で、顔だけでなく声の表情も豊かで、それが授業のいいリズムになっているように感じました。
- ・手遊びを順番にみんなの前で紹介させることは、どの人も必ずやることになるのでその一つだけでも身につくのではないかと思います。
- ・VTRを見て子どもの世界を読み取るのは、これから。何度もやることなので勉強になったと思う。シャトレナーの池はこんな遊びもあるのだと気付かせるによい。

②授業方法

- ・保育に対する熱い思いを分かりやすい易しい言葉で、学生の反応を確認しながら話されていたこと。
- ・配布資料などの準備も適切である。
- ・子どものエピソードや保育実技・保育者の目線の具体例など、長年保育にたずさわっておられた授業者だからこそ可能な話題が、必要に応じて出されていた。とりわけ、保育の主活動へ滑らかに接続するための「よい絵本」教材の選別は、学生たちにとって至難の業である。だからこそ、プロの保育者をされていた授業者によって教材選別のエッセンスを学ぶことができるのではないかと思われる。
- ・非常に表情豊かな語り口で、暖かく心に沁み込んでくるような声の使い方が素晴らしいと思いました。
- ・まだ子どもたちと関わっていないこの時期、VTRの使用はとても効果的でした。学習シートの作業量もほどよく設定されていたので時間配分もうまくいったのではないのでしょうか。
- ・参加型の授業は、学生の学習意欲の向上に有効であると感じた。また、学生の発表に対して、遊びの意義や対象の子どもの発達のお話をしていた。このことは、学生が今後教材研究する際の手掛かりになる。
- ・授業の中で使用したVTRの選択が指導者の自作かと思われるほど保育者の関わりに臨場感あふれており、指導者の人柄と重なり、学生も身近な園の出来事のようにとらえられ、それについて考える生きた教材であった。
- ・絵本に対する先生の造詣の深さが表れ、絵本の紹介と授業内容と関連付けようと努力されている様子がうかがえ、学生の興味や動機づけにはなると思う。先生のこれまでの経験から自然に出てくるお話は、流石現場経験者ならではの言葉だと感服いたしました。絵本やVTRを取り入れて興味深く、退屈させない。

③その他

- ・課題として、「最後の行まで記入すること」などが取り入れられていた。初年次教育として、学習生活習慣を身に付けさせたいという意図がみられる。
- ・学習シートと授業内容が対応していた。学生が自主的に書き込みしやすいと感じた。
- ・導入での手遊びや絵本の紹介は積み重ねることにより保育者を目指す学生にとって

大きな力となり、有り難いことです。

- ・山本先生の研究授業前の発達心理学Ⅰでも「生きる力」について話していたので「おっ」と嬉しく感じました。(…が、どのくらいの学生が結び付けてくれたかは怪しいものです)

(2) 授業の改善に関わる点

①教育内容

- ・重要な内容である(学生たちが学ぶべき・習得すべき)ことの理由くなぜ、大切なのかを学生は理解しにくい部分があったように思われる。虎の威ではないが、保育所保育指針・テキストといった資料での補完があれば、より理解が深まるのではないか。
- ・保育日誌の話が出てきたので、実物を提示すると、学生はイメージしやすいのではないだろうか。
- ・(②授業内容含む) (まだ保育について実体験がない一年生には難しいのかもしれませんが、) 保育の本質を語る山本先生の声がしっかりと心に残る授業づくり(メモを取る、聞く・書くタイミングを合図する、強調して繰り返す、自分なりに考えてみる・答えを出してみる等)をぜひお願いしたいと思いました。
- ・(②授業内容含む) 板書がプリントの穴埋めに限っていたことが少しもったいないと感じました。もちろん、その方が学生に分かりやすくなるとは思いますが、水遊びを通して子どもたちが経験している「水の魅力」や、そこで育つ「生きる力」、保育者の関わりの「選び方」等の書き込みがあってもいいかなと思いました。
- ・授業で書いた学生の感想や意見を発表する時間もまた、学生にとって気づきの場になると思います。
- ・手遊びの必然性等の話はされていると思うが、紹介されても他の人がしっかり理解し、受け止められるよう、担当者になった時の紹介の仕方に工夫させてほしい。(手遊びの利用の仕方、対象年齢他コンパクトに)
- ・子どもの世界の見方と保育日誌の書き方を同時に扱うことの難しさを感じた。日誌は、今後避けて通れない最も悩ましいことらしいので、別の機会に丁寧にやられた方が良いのではないか。むろん今回は子どもの観察の読み取りなので、VTRを見るとき、先生が話されたことをどこまで具体化して捉えられたか少し疑問に思っ

た。(私の思い過ごしで学習シートに書いておればよいのですが…)

②授業方法

- ・導入の部分でスムーズに入っていけるような工夫があればよかったかな。
- ・机間巡視が取り入れられており、一人ひとりの様子を確認する意図が見られた。さらに、通常の講話の際に、＜可能な限りということ＞学生一人ひとりの表情、しぐさを時には確認しながら授業をすすめていく余裕があってもよいかと思った(ちょっとした間を取ることで、1-2分は)。
- ・OHCで絵本を写す際の工夫をされるとよいかと思いました。
- ・学生のイメージーションを刺激するような内容があってもよかったと思います。VTR視聴前に場面内容の説明や記入の仕方を丁寧に伝えていたが、必要であったか。解説が長いと分かりにくいことがある。
- ・見立てや嘘っこの世界について、学生自身の思い出を取り上げると分かりやすいのではと思いました。「子どもたちは〇〇するでしょう」とか「〇〇するのを見たことない?」ではなくて、「〇〇したこと覚える?」「小さい頃、〇〇しなかった?」と聞くと、意外と出てきます。
- ・学習シートで育ってきた学生にとって、自分の見たもの、感じたものを自分のことばで書くことが大変苦手なので、本時だけでは無理だと思うが、別の時間(後期からの教育実習事前指導とも関連して)子どもの行動記録(行動とその子の思いの読み取り)、保育者の関わり(行動と言葉かけなど)、VTRで見たものそのままを書いてみんなで検討したり、望ましい記入例を紹介する時間が取れるといいなと思います。1:1の添削だけでは気づきにくい人がいて毎回同じことを指導する羽目になる事もあるので、同じものを見てもこのように書くとよい。といって経験をどこかでさせてほしいと思う。(私の老婆心でしょうか)

③その他

- ・本時では、教科書の直接使用がなかったが、教科書をどのように使用されているのか知りたかった。
 - ・改善点ではないのですが、気づいたことのメモです。検討会で発言したことも含め、思いつくままに書きます。
- 手遊び:せっかくなら全員の学生に定着させたい、フロアーの学生がもっとハングリーならいいのと感じました。何かやり方をもう一工夫できるかもしれません。

ハードスキルとソフトスキル：学生が違いを認識して初めて、両方が大切だという必要性・これを身につけなければという意欲がわくと思うので、時間があればもう少し例に挙げるなどが良かったのではないのでしょうか。あとのVTRが実例であることに学生は気づいていないので、授業のまとめの部分で「ソフトスキル」を再提示することもよいのでは？

VTR：今回のシート・作業なら先生のやり方になりますが、たとえば、このVTRを2～3回の授業に連続して使うことも可能ではないかと思いました。たとえば、本時より前に音を消して動画だけを見せ、保育者が何と声をかけたか、どういう援助をしたか、つまり、シート中央の「保育者の援助」の欄を考えさせ、後で種明かしして解説……とか。そうすれば本日のシート [ワーク3] がもっと意義の深いものになるような気がします。

- ・今回の視聴部分の続きを説明していたが、そのときは、学生は、学習シートの書き込みをしていたので、あまり心に残らないように思った。
- ・VTRに登場していた子どもの年齢を最後の方に伝えていたが、子どもの発達についての考察を促すためには、最初に伝えたほうがよいのではないか。

(3) 授業全体の感想

- ・先生の保育に対する熱い思いが感じられた授業でした。
- ・授業者の保育に対する強い思いが、授業から伝わってくる。だからこそ、内容構成・提示（声掛け）の方法に関する精選・吟味が必要になってくるのだと思われる。本時でいえば、入学後の2か月足らずの学生たちに見合った〈難易度・分量〉を検討することは難しい課題だと思い知らされた。

お忙しい中、授業をお引き受けいただき、また授業を拝見させていただきありがとうございました。

- ・内容が濃く、飽きさせることのない授業だったと思います。これだけの内容を学生がどのように理解しているか（これは学生側の問題ですが）を、学生自身に聞いてみたいと思いました。
- ・忙しい中、研究授業をお引き受けいただき、ありがとうございました。そして、お疲れ様でした。学生のこれまでの学びを把握することなく、教科書を覗いたこともなく、保育の経験もなく、勝手なことをいろいろ申し上げてしまいました。失礼を

お許してください。先生のキャリアに基づくお話、いつもながら聞き入ってしまいます。言葉の外側になる先生の深い「思い」を、きっといつか学生は気づくはずです。これからも学生とともに学ばせていただきたいと思っています。

- ・演習スタイルの授業を参観させていただきました。学生が交代で参加したり、VTR視聴や歌を取り入れたりなどの授業の工夫がとても参考になりました。山本先生らしい温かさあふれる授業でした。ありがとうございました。
- ・先生の現場で仕事をさせておられた強みを生かした説得力ある真実の一言一言が授業の展開のあちこちに見られ敬服しました。
- ・大勢の学生を一斉に指導される先生の御苦勞がわかり、検討会での意見交換も学生を理解するうえで有意義でした。本当にお忙しい時期にお疲れ様でした。ありがとうございました。
- ・研究授業お疲れ様でした。とても勉強になり、私の授業での学生との比較も興味深くさせてもらいました。(眠そうにしている学生が真剣な様子に…トホホ)。とにかく、授業の端々に語られる先生の一言にぐっとくるものを感じて、「そうだ！ そうなんだ！」と私の胸もなんだか熱くなりました。先生の授業を受けて、きっと学生も知らず知らずに先生の情熱を分けてもらってるんだろうなと…今の二年生を見ても思います。私はつい、語ろうとすると恥ずかしくなって、まごついてしまうんですが、そんな自分に負けずに、もっと熱くなろうと思います。本当にありがとうございました。
- ・時間がたってからこれを書きましたので忘れていたり思い違いがあるかもしれませんが。先生の学生に伝えたい、身につけてほしいと思う気持ちは痛いほどわかります。「そらよりたかく」に見られますように。いろいろ勉強させていただきました。ありがとうございました。

6. 授業後の振り返り

(1) 授業者の反省

学生に保育の現場のことを伝えたいことが山ほどあり、90分の授業に盛り込みすぎであることを反省している。さらに、時間配分がうまく出来ず後半焦り気味なるので、経験を重ねて技術を身につけたい。事例を授業者自身のことには抵抗はない

が、学生の反応がよくないのは事例がよくないのか、保育を実感できていないのか、または両者なのか掴めていない。その分析をする力量がないことも反省である。

学生に保育に対する意欲や誇りを育てるには、授業者の研鑽が必要であることの当たり前のことを強く感じた。

おわりに（まとめ）

今回の研究授業は、授業者にとって初めての研究授業であった。教員としての経験も浅く力量不足の者の授業にもかかわらず、学生も協力的で授業がしやすい環境であった。

入学して2か月足らずの学生に保育の本髄に触れるのはどうか、不安を持ちながらの授業であった。しかし、保育畑にいた授業者だから保育の現場からの授業をしたいと欲張り過ぎたことを反省している。

保育は他教科の集大成であり「理論から実践へ、実践から理論へ」の基本形を保育実習前の初年度教育で学生に伝えることと保育職は生涯を通して資質向上のための学びの姿勢を求めるものであることも実習前までには指導することも課題である。

まだまだ、保育に対する意識がそれほど高まっていない時期の研究授業であったが、それにも拘らず保育学科の教員の方々の温かい応援で授業ができたことを感謝である。さらに、授業検討会や参観記録で貴重なご意見をいただき重ねて感謝である。ご指導いただいたご意見を参考に、さらなる授業改善に努力をしたい。

資料

本時の指導案及び学習シート 関連資料として6講の指導案及び学習シート、パワーポイント資料

学生番号 () 氏名 ()

今日の手あそび 担当学籍番号 11~15

手あそびの題 _____

手あそびのポイント

今日の絵本 _____ 作者 _____

絵 _____ 翻訳 _____ 出版社 _____

感想

子どもの世界をどうみるか

1. 保育者としての資質能力を育てるために。

ハードスキル：

ソフトスキル：

「読む力」「聞く力」「話す力」「書く力」「みる力」

2. 子どもの世界をみる時のポイント 保育日誌・記録をイメージしましょう。

○記入の際の必須ポイント

① 「 _____ 」を
頭において書こう。



② 話し言葉でなく、 _____ で書く。 _____ などは使わない。

③ メモ帳・ _____ で書く。

④ 紙面の _____ にあった字で書く。

⑤ クラス名で書くときは必ず _____ も書き添える。「もも組・ _____ 」

- ⑥保育の流れや子どもの様子などが前日とよく似ていても、「_____」などと書かない。よく観察して、新たな視点で子どもたちに向き合おう。
- ⑦「今日は楽しかった」「・・・と感じた」ではなく、_____、_____、その_____なども含めて_____に書く。
- ⑧子どもの様子を知らない第三者が読んでも、_____がよく伝わるように書く。
- ⑨誤字脱字は厳禁。_____、一度書いたら_____して確かめよう。
- ⑩文章量の配分を考えましょう。

VTR「お水が爆発だぁ～！」から子ども理解と保育者の援助を考える

☆実習日誌でも、時系列の記録（時間経過を追った記録）は「現在形（～する）」で書く。

☆「実習生の気づき」は、事実とは異なり実習生の解釈なので「過去形（～した）」で書く。

(①・②)

[ワーク 1] 智紀くんの姿と保育者の援助について考えよう！

時間	子ども（智紀）の姿	保育者の援助	実習生の気づき
00:00	<p>・シャトレーナの横に立って、マヨネーズの容器で水をすくっている。</p> <p>・ゆいなちゃんがシャトレーナの下に入って遊んでいると、フライパンを持ってきて、水をすくう。</p>	<p>・「ともきくんも入ってみない？」と声をかける。</p> <p>・「それならすくえね！ペットボトルではすくえないけどねえ」と、ともきくんの気づきを受け止める。</p> <p>・「ともきくんはお魚釣りしてるんだって」と、他の子どもたちに伝える。</p>	<p>・保育者はビニールシートにたまった水をかき混ぜていた。水の中にある葉っぱが、魚が泳いでいるように見えるようにするための援助なのだったと思った。</p> <p>①</p> <p>②</p>
00:09	<p>・ビニールシートの水がなくなり、他の子どもたちが水を入れてくれるのを待つ。葉っぱを魚に見立てて、魚をすくうことを楽しんでいる。</p>	<p>・「お魚がいなくなっちゃったね」と言って、葉っぱを拾い、水の中に入れる。</p>	<p>②</p>

[ワーク 2] 智紀くんはこの遊びのどのようなことを楽しんでいると思いますか？

.....

.....

.....

.....

.....

.....

[ワーク 3] 保育者の声掛けや援助について、どのように感じましたか？

(感じたこと、考えたこと、疑問に思ったことなど)

.....

.....

.....

.....

.....

.....

保育実習指導Ⅰ—Ⅰ 第7講 指導案

保育者としての資質能力の育成

「子どもの世界をみてみよう」

山本 幾代

I. 本時のねらい

- ・ 保育の現場で生かせる保育技術（手遊びなど）を実践しわらべうたなどを理解し技術を身につける。
- ・ 子どもの世界の見方を通して、子どもの（保育）遊びのおもしろさを知り保育職を目指す意識を確かなものとする。
- ・ 保育者としての資質を養うために、子どもの世界の[起こった出来事⇒保育者のかかわり⇒出来事に対して考えたこと、感じたこと]の順に整理し考える。

II. 使用資料・教材・配布物

- ・ 絵本「ねえ、どれがいい？」
- ・ VTR「お水が爆発だぁ～！」CD「そらよりたかく」
- ・ 学習シート

III. 授業の流れ

時間	活動内容	指導上の留意点
10:40	○今日の当番の学生による手遊びを発表 ・学籍番号11～15番が手あそび発表する。 ・手遊びわらべうたのポイントを確認する。	・ 学生が発表したことを受けて、必要な今日のポイントを2～3知らせる。
10:50	☆学習シートに記入 ○今日の絵本 『ねえ、どれがいい?』 ジョン・バーニンガムさく	・ 出来るだけ今日の活動に関連させた絵本を紹介する。(選ぶ、選択すること考える)
11:00	まつかわまゆみやく 評	
11:05	論社 ☆学習シートに感想を記入 ○保育職を選んだ学生の成長の秘訣 ・ ハードスキルとソフトスキル ハードスキル: 幼児教育で求められる専門知識(乳児保育・発達心理学・保育原理など) ソフトスキル: 知識と技術コミュニケーション能力 両方とも大切	・ 人として生きる力とは?と問いかげ日々の積み重ねが力になる事を自覚してもらいたい。
11:15		

11 : 30	<ul style="list-style-type: none"> ・「読む力」「聞く力」だけでは専門職でない。 ・「話す力」「書く力」「みる」⇒「生きる力」 <p>◎子どもの世界をどうみるか？</p> <p>保育日誌をイメージして</p> <p>○記入の際の必須ポイント 5W1H</p> <p>「いつ」「どこで」「誰が」「何を」「なぜ」「どのように」</p> <p>☆学習シートに記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・穴埋めの言葉を板書する。
11 : 40 頃	<p>○VTR「お水が爆発だあ〜」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メモを取りながらみる。 ・集団保育の最大の長所は、自分以外の仲間の感性や創造性に触れてそのたのしさを共有できること。それを土台に一人の保育者のまなざしに気付く。 <p>☆学習シート・・・智紀くんの姿と保育者の援助について実習生の気づき①②を書く。</p> <p>☆学習シート・・・③④を書く</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・VDR を準備して置き、スムーズにできるよう配慮と準備をしておく。
12 : 00	<p>○「そらよりたかく」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者の子どもに対する誇り責任を感じる。 <p>○学習シートを収集し授業の終わりを告げる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習シートに書かれている日誌をイメージするため、また、今から観ようとする子どもと保育者の言葉を想像できるように説明をする。 ・記録のヒントを板書する。 ・2度目の VTR を流す。(書きながら) ・学生の様子を巡回しながら見、時間があれば発表させる。
12 : 08	<p>○「そらよりたかく」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者の子どもに対する誇り責任を感じる。 <p>○学習シートを収集し授業の終わりを告げる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・岩手県の子どもたちと保育者の心意気 (誇りと責任と生きる力)を紹介し、魂を揺さぶりたい。

研 究 紀 要

第58・59合併号

平成25年 2月25日 印刷

平成25年 2月28日 発行

編集発行 高 松 大 学
高 松 短 期 大 学
〒761-0194 高松市春日町960番地
TEL (087) 841-3255
FAX (087) 841-3064

印 刷 株式会社 美巧社
高松市多賀町1-8-10
TEL (087) 833-5811